

世界にひとつだけの桜

長勝院旗桜

埼玉県志木市柏町3丁目 11-13



ヤマザクラの一種で、日本櫻学会が発行する「櫻の科学」の平成 10 年 (1998) 9 月号に「世界に一本だけの新種」と掲載されました。花は大きく、一重咲きの花にオシベの一部が、旗を立てたように見えています(これを「旗弁(きべん)」と言います)。花によっては2枚くらい付くものもあり、この旗弁を見つける楽しみもあるハタザクラです。この貴重な旗桜を絶やさないうために、市内 10 か所程度に植樹されているようです。

- 名称:長勝院旗桜(ちょうしょういんはたざくら)
- 指定:志木市指定天然記念物、志木市指定保存樹木
- 樹齢:推定 400 年以上
- 樹高:11.2m 幹周:3.05m

源頼朝の再起を記念して植栽

頼朝桜

千葉県安房郡鋸南町大崩 39



石橋山の戦いに敗れた源頼朝は、真鶴(まなづる・神奈川県)から船で脱出し、千葉県安房郡鋸南町(きょなんまち)に、家臣の土肥実平(どいさねひら)と二人で治承4年(1180)に上陸しました。そして頼朝は、同年10月7日に鋸南町で再起して鎌倉入りを果たしたのです。そのことを記念し、頼朝が挙兵した鋸南町では、平成 13 年(2001)に静岡県河津町から「河津桜」の原木を譲り受け、「頼朝桜」と名付けて毎年「頼朝桜まつり」を開催しています。

- 名称:頼朝桜(よりともざくら)
- 本数:約 15000 本
- 備考:毎年「頼朝桜まつり」を開催

源頼朝が政子の安産を祈願

政子の安産杉

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根 80-1



箱根神社は皇祖三神、瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)、木花咲耶姫命(コノハナサクヤヒメノミコト)、彦火火出見尊(ヒコホホデミノミコト)をお祀りしていますが、この名木は古代祭祀の象徴たる 神籬(ひもろぎ)として崇めてきたもので、健全な母胎の象徴であり、子孫繁栄を祈る名木です。源頼朝は、この木に政子の安産を祈願して、實朝(さねとも・三代将軍)が無事誕生しました。こうしたことから、今日でも「政子の安産杉」として親しまれ、信仰されています。

- 名称:政子の安産杉(まさこのあんざんすぎ)
- 樹齢:推定 1000 年
- 樹高:40m 幹周:19.31m

源頼朝主従が隠れた名木

土肥の大杉

神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋



治承4年(1180)、石橋山の合戦に敗れた源頼朝が、大杉の伏木(ふしき)の空洞に隠れた場所と言われています。平家方の大庭景親(おおばかげちか)の命により梶原景時(かじわらかげとき)は、伏木の中をうかがい頼朝と目が合いましたが、助けようと決意し、蜘蛛の糸を鎧に付けて「誰もいない」と他の者の探索を許しませんでした。後に景時は、頼朝の家来になったと言います。大正6年(1917)の暴風雨で、頼朝主従が隠れたこの大杉は倒木してしまいました。

■名称:土肥の大杉(といのおおすぎ)

■備考:現地に「土肥の大杉跡の碑」あり

乳がよく出る不思議な名木

影向寺の乳イチョウ

神奈川県川崎市宮前区野川本町3丁目4-4



今は昔、言い伝えによると乳が出ないので困った母子が、池に身を投げしようとしたところ、不思議な光が現れました。その後をついて行くと、このイチョウの前に着き、「乳柱(ちはしら)を削って汁を飲め」とのお告げがあり、その通りにすると乳がよく出るようになりました。乳柱とは、枝や幹から垂れ下がる円錐状の突起のことです。この木は川崎市内最古のお寺、影向寺にあり、本堂の屋根よりはるかに高くそびえ立っています。

■名称:影向寺の乳イチョウ(ようこうじのちちいちょう)

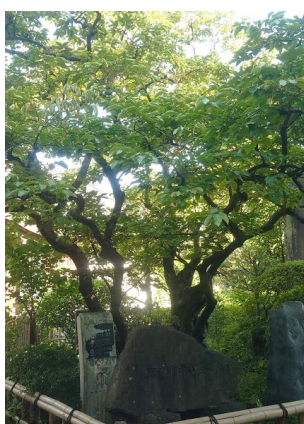
■樹齢:推定 600 年

■樹高:28m 幹周:8m

日本で最初の甘柿と言われる

王禅寺柿の原木

神奈川県川崎市麻生区王禅寺 940



等海(とうかい)上人が王禅寺の山中で、見たこともないような赤い柿がなっているのを見つけ、一口食べてみると非常に甘くて美味しかったのです。そこで上人は、この柿の枝を折って村人に接木(つぎき)をさせて栽培を広めると、瞬く間に「王禅寺丸柿」としてよく売れましたが、そのうちに「王」が取れて「禅寺丸柿」と呼ぶようになりました。王禅寺にある日本で最初の甘柿の原木は、そのひこばえが成長したものです。

■名称:王禅寺柿の原木(おうぜんじかきのげんぼく)

■樹齢:推定 450 年

■樹高:6m 幹周:2m

源頼朝が大願成就を祝して植えたと言われる

頼朝杉

静岡県島田市千葉 智満寺境内



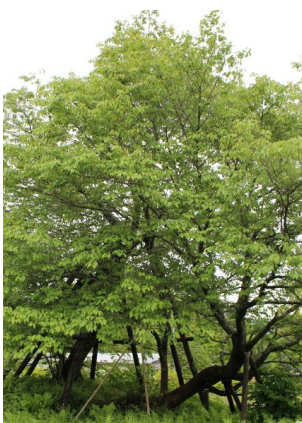
智満寺は平家打倒が叶った後、大願成就を祝して、文覚の勧めにより源頼朝が千葉常胤(ちばつねたね)に本堂を再建させたものです。千葉氏が再建したので、山号は静岡にありながら千葉山になっています。文覚や千葉常胤の行動力により、平家打倒、奥州征伐から武家社会の幕開けという偉業を成し遂げた証に植えたのがこの頼朝杉です。

- 名称: 頼朝杉(よりともしぎ)
- 指定: 国指定天然記念物
- 樹齢: 推定 800～1200 年
- 備考: 自然倒木により、現存せず。

富士の巻狩りで源頼朝が馬から降りた場所

狩宿の下馬桜

静岡県富士宮市狩宿 98-1



建久4年(1193)に、富士の巻狩りで源頼朝が馬から降りた場所にある「狩宿の下馬桜」。近くに頼朝が宿泊した建物もあります。余談ですが、その巻狩の最中に曾我兄弟が親の仇である工藤祐経(くどうすけつね)を、討ち果たしました。

また、江戸幕府第15代征夷大將軍、徳川慶喜がこの桜について詠んだ歌「あわれその 駒のみならず見る人の 心をつなぐ山桜かな」があります。日本五大桜の一つです。

- 名称: 狩宿の下馬桜(かりやどのげばざくら)
- 指定: 国指定天然記念物
- 樹齢: 推定 800 年
- 樹高: 35m 幹周: 8.5m

楠木正成の戦勝祈願！

大楠公手植えの楠

京都府八幡市八幡高坊 30



石清水八幡宮の境内西側、戦国時代に織田信長が奉納した土堀(信長堀)の後ろに、参路に覆いかぶさるような巨木です。江戸時代の『洛陽名所集』には「戦勝軍利を祈り、楠千本を八幡山にうへけり」とあり、楠木正成公が建武元年(1334)、必勝祈願参拝の折に、八幡山に植えた楠の中的一本と言われているとされています。この場所、男山には同じような推定樹齢600～700年と言われる楠の大木が、他にも数本あります。

- 名称: 大楠公手植えの楠(だいなんこうてうえのくす)
- 指定: 京都府指定天然記念物
- 樹齢: 推定 700 年
- 樹高: 30m 幹周: 18m

剣豪が通い、馬をつないだ名木

渡辺綱駒つなぎの楠

大阪府大阪市都島区善源寺町1丁目 11-26



この周辺はかつて善源寺荘と呼ばれ、大江山の鬼退治で有名な源頼光が支配する荘園でした。長徳年間(995～998)、頼光は源氏の八幡大神を祀り、産土(うぶすな)神社を創建して、頼光自らがこの樟を植えたと言われています。「駒つなぎ」の名は頼光の四天王の一人で、荘園の管理をまかされていた渡辺綱が、いつも馬をこの樟につないだからと伝えられています。昭和になって大阪府の天然記念物第1号に指定されましたが、戦災に遭い現在は枯死(こし)状態になっています。

- 名称: 渡辺綱駒つなぎの楠(わたなべのつなこまつなぎのくす)
- 指定: 大阪府指定天然記念物
- 樹齢: 推定 900 年
- 樹高: 20m 幹周: 10m
- 戦災により現在は枯死状態

平敦盛の首実検をした巨木

義経腰かけの松

兵庫県神戸市須磨区須磨寺町4丁目 6-8



源義経は元暦元年(1184)、一ノ谷の戦いで、熊谷直実(くまがいなおざね)が討ち取った平敦盛(たいらのあつもり)の首を、この松の木の手前にある池で洗い、木に腰を掛けて首実検をしたという伝承があります。そのため「首実検の松」とも呼ばれています。

床が石でできた屋根付きの建屋の中に、倒木した大きな枯れた幹部が置かれていて、現地でその姿を見ることができます。

- 名称: 義経腰かけの松(よしつねこしかけのまつ)
- 備考: 倒木した姿を見学できる

想像上の娘さんを椿の木になぞらえた

たんだの椿

奈良県香芝市平野



昔、平野村のお屋敷に立派な椿の木がありました。この家に病弱な娘がいるという噂もありましたが、誰も見た者はいませんでした。そんなある日、その立派な椿の木が急に弱り、屋敷の主人はその衰えように気味が悪くなって、なんと切り倒してしまったのです。村人はまるで噂のお嬢さんの様態が、同じように悪くなっていくような気がしました。それから数年後、切り株からひこばえが出て成長し、現在では「たんだの椿」と呼ばれて、美しい花を咲かせています。

- 名称: たんだの椿(たんだのつばき)
- 備考: 奈良の有名な昔話

白髪のお翁に守られたご神木
来宮神社の大樟
静岡県熱海市西山町 43-1



木の周りを1周すると寿命が1年延びる、願い事が叶うと言われています。昔は大楠が7株ありましたが、嘉永年間(1848～53)に、大網事件という漁業権を巡る争動が起こり、訴訟費等の捻出のため5株を伐採したそうです。そのとき、この木も伐ろうとしたところ、白髪のお翁が現れ、キコリの持つ大鋸(のこぎり)を二つに折ってどこかへ消えたという伝承があります。それ以来、神木として崇めるようになったと言われています。

- 名称: 来宮神社の大樟(きのみやじんじやのおおくす)
- 指定: 国指定天然記念物
- 樹齢: 推定 2000 年
- 樹高: 20m 幹周: 24m

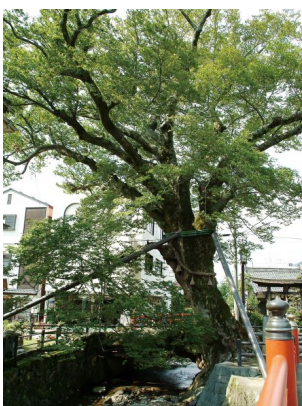
滋賀県最大の大ケヤキ
柏原の野大神
滋賀県長浜市高月町



「柏原の野大神」は、国道 365 号線沿いに立ち、すぐ後ろに神社があるので「八幡神社のケヤキ」とも呼ばれています。「野神」とは五穀豊穡の神であり、この柏原の野大神の前で、毎年8月に野神祭が行われます。木の脇に「野大神」の石柱が立ち、幹のかなり高い所に立てられた御幣が、神木であることを表しています。人の目線で見て目立つのは木のコブで、これにはそばを流れる高時川(たかときがわ)が氾濫しそうになったとき、枝を切ってせき止めたという伝説があります。その名残りがこの木のコブで、大ケヤキはまさに高月町の守護神なのです。

- 名称: 柏原の野大神(かしはらののだいじん)
- 指定: 滋賀県指定自然記念物
- 樹齢: 推定 500 年以上
- 樹高: 22m 幹周: 8.4m

根が伸びて川をまたぐ
木の根橋
兵庫県丹波市柏原町柏原 5-1



すぐそばを流れる奥村川(幅約6メートル)を、根がまたぐように伸びた古木です。枝を手でさわると枯れてしまうので、お気をつけください。この大ケヤキの樹勢回復のための保護と治療をきっかけとして、昭和 63 年(1988)に「巨木を語ろう全国フォーラム」の第1回大会がこの旧柏原町で開催されました。また、この木の前に織田神社があり、柏原町は織田家の城下町としても知られています。くわしくは、下記 YouTube をご覧ください。

- 名称: 木の根橋(きのねばし)
- 指定: 兵庫県指定天然記念物
- 樹齢: 推定 1000 年以上
- 樹高: 25m 幹の直径: 6m
- 月刊「こだまっこ vol.2」に特集あり。アマゾンで検索を

■YouTube: 「根が川をまたぐ 木の根橋」 <https://www.youtube.com/watch?v=83anSnNBwRc>

美しい天女と平常将伝説

羽衣の松

千葉県千葉市中央区市場町 1-1



この松に羽衣をかけて「千葉(せんよう)の蓮の花」が咲き誇るのを見入った天女。そのすきに羽衣を奪い、自分の妻としたのが土地の豪族、平常将(たいらのつねまさ)です。伝説によれば、常将と天女の間に儲けたのが常長(つねなが)であると言われています。天女と松に関する伝説は各地にあります。たいていは泳ぎに来て羽衣を奪われ、共に暮らしますが、最後は羽衣を取り返して天に帰る、というのがほとんどです。天女が花に見とれて妻になって、子まで成すというのはとても珍しい。できれば、そのへんの様子を見ていたこの松に、聞いてみたいものですね。

■名称:羽衣の松(はごろものまつ)

頼朝も認めた価値ある松

森戸神社の千貫松

神奈川県三浦郡葉山町堀内 1025



毎年、海水浴客でにぎわう森戸海岸の近くにある森戸神社。その神社の裏手、海岸に突き出た岩の上に「千貫松」という松があります。この名前の由来は、源頼朝が衣笠城に向かう途中、森戸の浜で休憩した際、岩の上の松を見て「いかにも珍しき松」と感心したところ、出迎えた和田義盛(わだよしもり)は「我等はこれを千貫の値ありとて千貫松と呼びて候」と答えたと言われています。今の価値で一貫が約 10～15 万円ですから、千貫は約1億～1億 5000 万といったところでしょう。

■名称:森戸神社の千貫松(もりとじんじやのせんがんまつ)

三島七木、最後の一本

三嶋大社の楠

静岡県三島市大宮町2丁目1



三嶋大社総門の西側、神池の脇に御神木が立っていて、根元には祠もあります。江戸時代、箱根の関所を通る際、三島の名勝「三島七木(みしまななぼく)」を暗誦できれば、手形がなくても三島の人である証明になり、通行を許されたと言われています。七本とは、間眠(まどろみ)神社の松、法華寺の松、石(おしゃもじ)神社の松、陣屋のケヤキ、道満塚(どうまんづか)の松、晴明塚(せいめいづか)の松、そして、この三嶋大社の楠です。残念ながら七本のうち現存しているのは、この楠だけということです。

■名称:三嶋大社の楠(みしまたいしゃのくすのき)

■樹高:16m 幹周:7m

千鶴丸、無念の名木

三島神社の橘

静岡県伊東市富戸 686



頼朝と八重姫の間の子、千鶴丸にまつわる話。八重姫の父、伊東祐親（いとうすけちか）は、この子のことを平清盛に知られては一大事と、八重姫から千鶴丸を奪い、家来に命じて川に沈めました。そのとき家来はせめてもの慰めにと、火牟須比神社（ほむすびじんじゃ）の神木である橘の小枝を二本折って、千鶴丸の幼い両手に握らせたのです。やがて川を下り海へ出て、この富戸の海岸に流れ着いた千鶴丸の遺体の両手には、しっかりと橘の枝が握られていたのです。その二本の枝をこの地に挿したところ、見事に根付き三島神社の橘になったと言われています。現在は何代目かの橘です。

■名称:三島神社の橘(みしまじんじゃのたちばな)

幼い千鶴丸に握らせた名木の枝

火牟須比神社の橘

静岡県伊東市鎌田 751



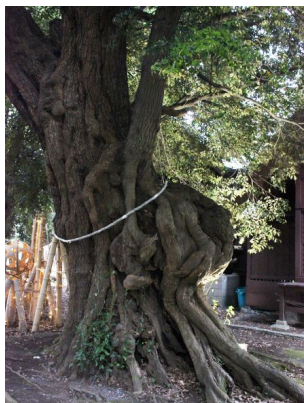
源頼朝と伊東の領主、伊東祐親（いとうすけちか）の娘、八重姫との間に生まれた千鶴丸を、祐親が平家を恐れて、川に沈めたと言われています。川に向かう途中、千鶴丸をあやすために、この神社の橘の枝を千鶴丸の手に握らせました。千鶴丸の遺骸は富戸へ流れ着き、握りしめていた橘の枝が根付いて、三島神社の橘になったと言われています。この二つの神社の橘は「おとどい(兄弟)の橘」と名付けられました。

■名称:火牟須比神社の橘(ほむすびじんじゃのたちばな)

頼朝と八重姫ゆかりの神社

音無神社の椎の木

静岡県伊東市音無町 1-13



音無神社は源頼朝と伊東祐親（いとうすけちか）の娘、八重姫が密かに逢っていた場所と言われています。神社内には、常緑広葉樹の高木である、このすだ椎（スダジイ）のほかに棕の木（ムクノキ）、伊東市指定文化財の榊（タブ）の木があり、「音無の森（おとなしのもり）」としてひっそりとした社を形成しています。伊東市内には、他にもすだ椎の巨木が神社や寺の森に多く見受けられます。

■名称:音無神社の椎の木(おとなしじんじゃのしいのき)

■指定:伊東市指定天然記念物

■樹高:25m 幹周:6.25m

二度咲きの甘い芳香が広がる

三嶋大社の金木犀

静岡県三島市大宮町 2-1-5



「三嶋大社の金木犀」は、毎年9月上旬と下旬に2度満開を迎えます。薄い黄色の可憐な花をつけ、甘い芳香が特徴です。この金木犀(きんもくせい)は1回目の花が散った後に、2回目の花を開かせる「二度咲き」の木として知られています。満開時には神社付近はもちろん、二里先までその芳香が届いたとの逸話もあります。そしてその時期に「木犀の夕」が催され、舞楽・箏曲が奏されるのです。周囲では原木の新芽を苗木とした後継樹も育成しています。

- 名称: 三嶋大社の金木犀(みしまじんじゃのきんもくせい)
- 指定: 国指定天然記念物
- 樹齢: 推定 1200 年
- 樹高: 15m 幹周: 4m

航行する船の目印

村上社の楠

愛知県名古屋市南区楠町 17



ここには元、八幡神社があったようですが、楠の成長の妨げになるとして、八幡神社の方がここから移ったようです。昔は家がほとんどなかったのか、この楠が渡船場にやってくる船の大事な目印になっていたと言います。また、この地に祀られている村上天皇は、他に任せるのではなく、天皇自らが政治を行う「天暦の治」で知られ、歌人としても評価が高く、琴や琵琶などにも精通し、平安文化を開花させた天皇と言われています。

- 名称: 村上社の楠(むらかみしゃのくすのき)
- 指定: 名古屋市天然記念物
- 樹齢: 推定 450 年
- 樹高: 20m 幹周: 10.8m 根回り: 13.2m 枝張り: 東西 22m 南北: 20m

小野小町、百夜通いの伝説

小野葛籠尻町のカヤ

京都府京都市山科区小野葛籠尻町



小野小町に恋いこがれる深草少将。小町は自分のことをあきらめさせるために「私のもとへ百夜通ったなら、あなたの思い通りになりましょう」と約束します。そうして遠い道のりを雨の日も風の日も通い続けましたが、最後の百夜目にして深草少将は、雪の中で息絶えるのです。小町はカヤの実を糸に綴ってその日を数えていましたが、少将を気の毒に思い、たまった九十九個のカヤの実を周辺に播きました。その中の一つが成長して「小野葛籠尻町のカヤ」になったと言われています。

- 名称: 小野葛籠尻町のカヤ(おのつづらじりちょうのかや)
- 指定: 京都市指定保存樹
- 樹高: 25m 幹周: 6.25m

安倍晴明の母狐、葛の葉姫の物語

葛葉稲荷の千枝の楠

大阪府和泉市葛の葉町 1-11-47



「信田森神社(葛葉稲荷神社)(しのだもり くずのはいなりじんじや)」の創建は和銅元年(708)。清少納言も『枕草子』の中で「森は信田の森」と記すほど、日本の森の代表格のような扱いです。神社の由緒では、枝が四方に大きく広がっている様を、花山上皇(968～1008)が見て「千枝(知恵)の楠」と名付けたとあります。また、この神社に伝わる白狐「葛の葉姫」の伝説が、古浄瑠璃の「信田妻」となり、歌舞伎や文楽の「蘆屋道満大内鑑」となりました。「恋しくは 訪ねきてみよ 和泉なる 信太の森の うらみ葛の葉」という歌を、狐らしい仕草で障子に書く場面が見せ場となっています。後に陰陽師、安倍晴明となる子供との別れの場面です。お話の内容は、それぞれの演目や伝説によって異なりますが、その舞台となるのは決まって、ここ「信田森神社(葛葉稲荷神社)」なのです。

■名称: 葛葉稲荷の千枝の楠(くずのはいなりのちえのくすのき)

■樹高: 21m 幹周: 11m

幹が空洞でも雄々しく生きる

鷺原道の楠

奈良県奈良市春日野町春日大社飛火野



幹の内部が空洞と化し、通常なら枯死状態になってもおかしくない樹木です。それが樹皮によって養分が運ばれているのか、葉は青々と茂り、他の樹木と変わらないように見えます。この「鷺原道の楠」の「鷺原道(さぎはらみち)」とは、飛火野方面から春日大社方面を結ぶ野道です。別名「地僧道(じそうみち)」と呼ばれ、かつて興福寺大乘院の僧が春日大社へお参りした道で、春日大社表参道の瓢箪灯籠に通じています。時代を超えて、内部が空洞と化しても生きる生命力の素晴らしさを、ぜひ、奈良、飛火野でごらんになってください。

■名称: 鷺原道の楠(さぎはらみちのくすのき)

■樹高: 24m 幹周: 7.3m

かつては村人たちが集った御神木

芝辻町の野神さん

奈良県奈良市芝辻町



近鉄電車「大宮」駅を降りて5分ほどの所にある御神木。しかし、現地にはこの御神木を説明する解説板も何もありませんが、不思議なことにグーグルマップには「ノガミサン」と出てきます。このノガミの「野神信仰」とは、五穀豊穡を願う田んぼの神様です。「芝辻町の野神さん」もごく身近な神様なので、ここに村人たちが集ったのでしょう。木の横の駐車場に面した枝はみんな途中で切り取られています。かつてはもっと枝ぶりが大きく、すごかったんだろうと想像します。

■名称: 芝辻町の野神さん(しばつじちょうののがみさん)

子供たちの楽しい仲間入り

三宅町の農神さん

奈良県磯城郡三宅町石見



現地の解説板に「祭りの前日に氏神にて十五歳の男子が中心となって、わらや杉葉で三メートルに及ぶ蛇を作る。翌朝早くに蛇を「野神塚」へ運び、小豆餅、神酒、山海の幸を供えて古老の祈祷を受ける。豊作を祈願し、供え物を食べる楽しい仲間入りの行事である」と書かれてあり、その解説板から 30m ほど細い道を行くと、御神木がそびえ「野神の塚」があります。ここで重要なのは、解説板にある子供たちの「楽しい仲間入り」でしょう。この野神祭りは、地域への子供の参加行事なのです。

■名称:三宅町の農神さん(みやけちょうののがみさん)

弘法大師の杖が霊木に成長

梶神社の梶の霊木

奈良県奈良市肘塚町 208



梶神社(くぬぎじんじゃ)は梶(くぬぎ)の霊木を中心に囲いがあり、道路の半分を占拠しています。一説によると弘法大師が梶でできた杖を地面に刺したら、それが根付いて木になったと言われています。他の地域でもよく言われるのが、道をふさぐ霊木がじゃまだから切ろうとすると、作業員が亡くなったとか、木から血が出たとかで、祟りが怖くて残しているという、まことしやかに語られる都会の怪談です。でも実際は、霊木も地蔵も土地を守っているの、おいそれと移動できないというのが本来の理由でしょう。

■名称:梶神社の梶の霊木(くぬぎじんじゃのくぬぎのれいぼく)

空襲で受けた傷も回復

一の橋の樟樹

和歌山県和歌山市一番丁 3



和歌山城(和歌山城公園)の北の角、高さ6m ほどの石垣に覆いかぶさるように枝が地面近くまで垂れている楠です。この城内最大の樹木は「昭和20年(1945)の和歌山大空襲で損害を受けた」と解説板に書いてあります。おそらく一部が焼けてしまったのか、爆撃によって枝や幹が損傷を受けたのでしょうか。一時は、このまま枯死するのではないかと心配したということですから、かなり重症だったはずですが。でも今は、どこがやられたのかわからないほど、樹勢が回復しています。

■名称:一の橋の樟樹(いちのはしのくすのき)

■指定:和歌山県指定文化財、天然記念物

■樹高:25m 幹周:7m 枝張り:35m

以上 (11月1日「名木伝承の日」公開情報)